

新素材・新技術研究会
環境・安全・品質マネジメント研究会
情報技術・マルチメディア研究会

No2 Aug/98

新素材・新技術研究会 例会 のご案内

来る9月25日(金)、愛知産業機3階会議室に於いて、主題「最近の新技術動向」として次の三講演を開催いたします。

- | | | |
|---------------------|---------|-------|
| ①「国際標準化をめぐる動向」 | 通商産業省 | 藤川昌宏氏 |
| ②「最近の溶接ロボットとその適用事例」 | 住金溶接工業機 | 中村雅敏氏 |
| ③「最近の超高温材料開発のトピックス」 | 東工大名誉教授 | 田中良平氏 |

(詳細は4頁をご参照下さい)

環境・安全・品質マネジメント研究会 例会 のご案内

続いて10月8日(木)、上記同所に於いて、「環境と中小企業の技術革新」の主題にて次の三講演を開催いたします。

- | | | |
|------------------|---------------|-------|
| ①「中小企業の技術革新の方向」 | 通商産業省 | 林 明夫氏 |
| ②「環境ホルモンの諸問題」 | コガミフインケミカル研究所 | 湖上国雄氏 |
| ③「環境管理をめぐる最近の動向」 | 中央大学教授 | 矢部浩祥氏 |

(詳細は4頁をご参照下さい)

情報技術・マルチメディア研究会 に関する講演会報告

去る7月28日、新素材・新技術研究会例会を兼ねて「情報技術・マルチメディアに関する講演会」が開催された。本講演会は(財)国民工業振興会の第三の研究会として、この度新発足する「情報技術・マルチメディア研究会」を記念して行われたが、熱のこもったご講演と質問の飛び交う多数の参加者で関心の高さがうかがえた。なおご講演の詳細は3頁に聴講報告があるので、ご参照下さい。

*この度、事務局長が交代しました。2頁に挨拶変わりの原稿で、ご紹介しますので、よろしくお願い致します。

クビをつないだお話

(財) 国民工業振興会
事務局長 林 武彦

このJIPA NEWSが皆様のお手もとに届きますのが、盛夏の頃と存じますので、軽い昔話をご紹介します。

金属の接合と言えば、「溶接」といった具合に溶接が普及し不可欠な技術として、多用されています。このような現在に至るまでには、膨大な関係者の方々の血のにじむような努力があったものと感謝する次第であります。溶接の手法の開発・発展が得られた今日、金属の熱影響対策とその信頼性の確立が、今後続く問題でありましょう。熱を避けた金属の接合が以下の話であります。

発端は、昭和27年に発生した吉野地方の地震であります。この影響で、奈良薬師寺の薬師菩薩脇侍の月光菩薩が倒れ首にひびがは入り、これを切断した後、修復することになりました。当時脚光をあびつつありました、アルゴンアークによる溶接が検討されましたが、溶接後の割れの問題、色相の変化などの理由から故・大阪大学大西巖教授のご指導のもとで、接着剤を用いることとなりました。いまでは、仏像をはじめとする古美術などの修理には、この方法が使用されていますが、この手法は、このときが始まりであります。剥落片の接着もあり、また熱をかけないことによる色相の維持がおもな目的でありました。このとき、用いられたのはエポキシ系の接着剤で、青銅粉に珪素を混入したものを接合部に充填し、美観を損なわないように配慮したそうであります。

金銅仏の材料は、約1%の錫を含む銅合金に少量の珪素があり、これが仏像の黒光りの原因とされています。合金の結晶は粗く、微細気泡が沢山あるものの、約1300年前としては良好な鑄造技術であったといえるそうであります。

現在において、溶接は不可欠な技術として、多用されておりますが、熱影響から脱却した金属の接合法や切断方法が開発されれば、さらに応用分野が広がるであろうことを期待しています。例えば、切断において材料の上を何らかの装置が走り、材料に衝撃などを与えたとき、装置の走行軌跡のとおり材料が破断され、熱の影響を受けないで加工できる、と言ったようなことがいずれ実現するのではないかと、期待しています。

平成10年4月1日より、事務局を担当致すこととなりました。皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

——「情報技術・マルチメディアに関する講演会」の聴講報告——

*平成10年 7月28日に開催された題記の例会概要は以下の通りです。

32名の参加者があり熱のこもった講演会でした。

講演 I 西暦2000年問題とそれが情報処理に及ぼす影響

内田技術士事務所長 内田 潤一 氏

一般にコンピュータの年号は二桁で記憶され処理されているが、世紀の変わり目に00とインプットすると、1900と2000の区別に混乱が起こる可能性がある。ご講演では先ずビデオで混乱の予測事例の紹介があり、つぎにこの問題の本質、対応策、現状、日米の取組状況の差などについて述べられた。特に中小企業での取り組みについて力点を置かれたが、ソフトウェアの品質管理に関心を持つことの重要性が強調された。

ご講演はOHPを使用されたが、配布された講演概要には、OHP標題の一覧表がまとめられてあるので、関心のある方は、参照されると良い。

講演 II 進化するインターネットビジネス

(財)JIPA常務理事 鈴木 大吉 氏

ご講演は先ずインターネットを再認識するに相応しい数々のOHPによるご紹介から始められた。先進の米国の情報が詳しく、インターネットビジネスの賑がりの様子が、十分に理解できた。「日本のネット人口も1000万こえる」とのことであったが、「百年続いた、丸善、紀伊国屋の洋書販売の伝統がデオデオの一撃で崩れた」お話など、非常にインパクトがあったが、これも米国のアマゾン書店に関する様々な情報提供が前段としてあり、インターネット・ショッピングの進化を認識するに十分な事例であった。

講演 III 活字メディアが電子メディアにどう変わるか

日刊工業新聞社 電子メディア推進室長 渡辺 秀夫 氏

インターネットに日頃あまり接触のない身には、朝日・読売・毎日・日経など新聞各社のホームページを眺めるだけで、新聞情報が入手できるとは…、初耳であったが、これが現状では無料とのことである。このため最近の若者は新聞を購読しなくなった。果たして新聞の将来は…!?。いかにあるべきか。と様々な角度から考察されるご講演であったが、毎日の新聞に慣れ親しんでいる身にあって、改めて新聞の読み方を考えるのに良い機会であった。出席者の質疑からは新聞の価値を再認識すると共に、在り方への具申も多く、関心の深さもうかがえることができた。

(報告者：飯塚眞平)

☆新素材・新技術研究会 例会予告

主題：最近の新技術動向

1. 開催日時：平成10年 9月25日（金） 13:30～17:00

2. 場 所：愛知産業（株）本社ビル3階会議室

3. 講 演： I 国際標準化をめぐる動向

通商産業省 機械情報産業局 産業機械課長 藤 田 昌 宏 氏

II 最近の溶接ロボットとその適用事例

住金溶接工業株式会社 機器課長 中 村 雅 敏 氏

III 最近の超高温材料開発のトピックス

㈱超高温材料研究センター 技術顧問

東京工業大学名誉教授 工学博士

新素材・新技術研究会 会長 田 中 良 平 氏

☆環境・安全・品質マネジメント研究会 例会予告

主題：環境と中小企業の技術革新

1. 開催日時：平成10年10月 8日（木） 13:30～17:00

2. 場 所：愛知産業（株）本社ビル3階会議室

3. 講 演： I 中小企業の技術革新の方向

通商産業省 中小企業庁 技術課長 林 明 夫 氏

II 環境ホルモンの諸問題

コガミファインケミカル研究所 所長 工学博士 湖 上 国 雄 氏

III 環境管理をめぐる最近の動向

中央大学 教授

環境・安全・品質マネジメント研究会 会長 矢 部 浩 祥 氏

☆一般参加を歓迎します。お申込みは TEL:03--3449-2144へ（案内書をお送りします）

JIPA

財団法人 国民工業振興会

〒141-0001 東京都品川区北品川5-3-20

TEL. 03-3449-2144

FAX. 03-5488-5520